

2027年2月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料



(証券コード：2698)

<https://www.cando-web.co.jp>

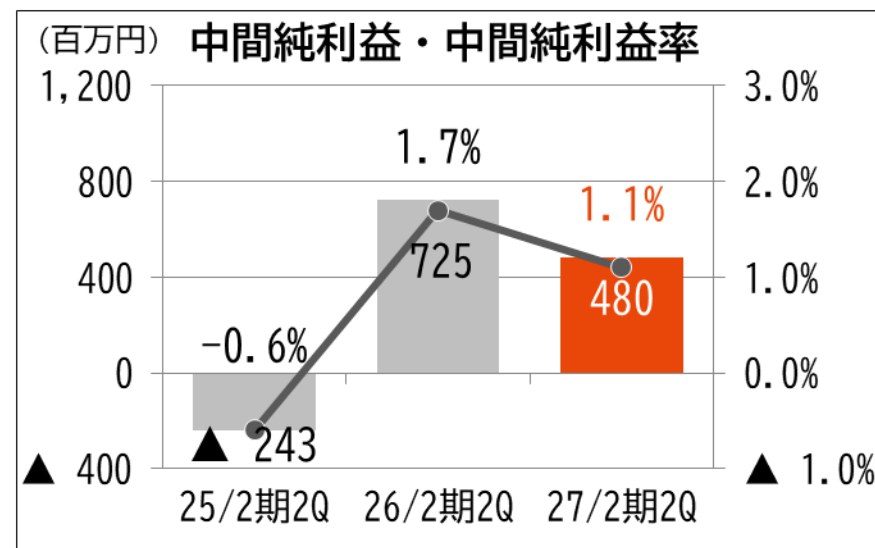
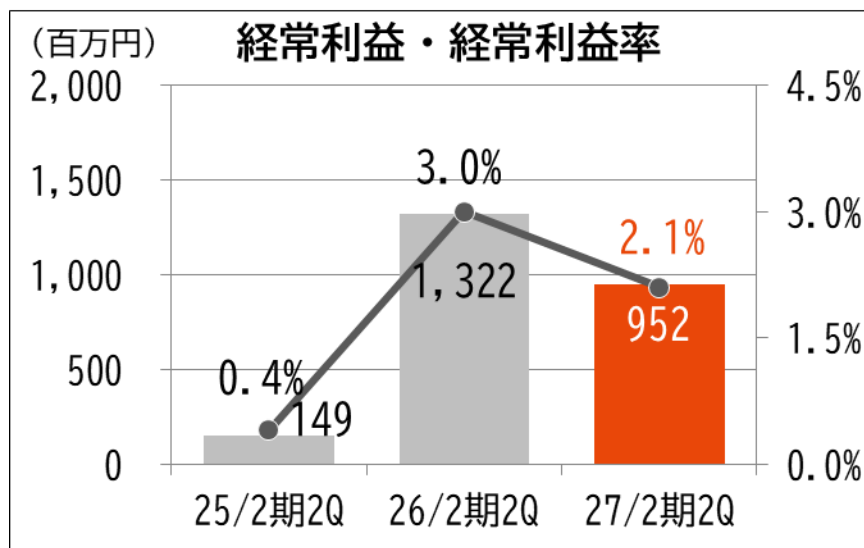
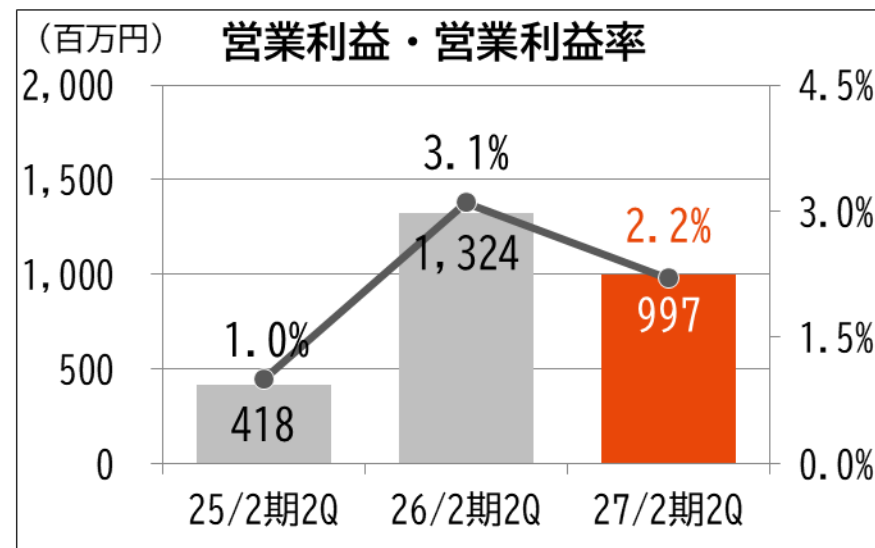
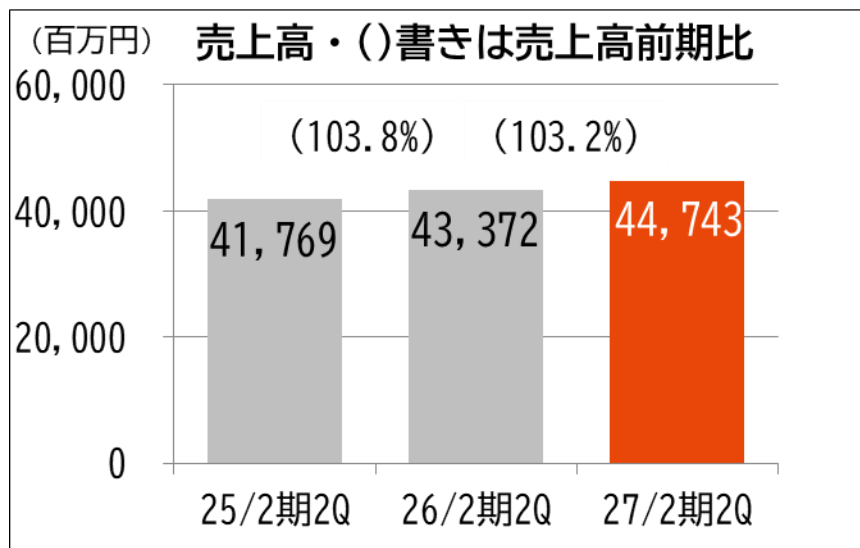
2026年10月9日

連結損益計算書（前期対比）

- ・ 売上高は、前期に対し、1,370百万円の増収
- ・ 各段階利益は、前期に対し、減益

(単位：百万円)		当期2Q実績	前期2Q実績	前年同期比	前年同期差
売上高		44,743	43,372	103.2%	1,370
営業利益		997	1,324	75.3%	▲ 326
経常利益		952	1,322	72.0%	▲ 370
親会社株主に帰属 する中間純利益		480	725	66.3%	▲ 244
一株当たり 中間純利益		30.05円	45.32円	66.3%	▲ 15.27円

連結損益計算書 年次推移



連結貸借対照表

- 資産は、現金・預金993百万円、商品374百万円の減少
- 負債は、電子記録債務2,000百万円の減少

注)前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、期末日満期手形等の支払が当中間連結会計期間に含まれております。その結果、現金・預金ならびに電子記録債務がそれぞれ1,756百万円減少しております。

(単位：百万円)

	当期2Q実績	前期末実績	前期末比	前期末差
資産	31,280	32,993	94.8%	▲ 1,713
負債	20,454	22,459	91.1%	▲ 2,005
純資産	10,826	10,533	102.8%	292
自己資本比率	34.6%	31.9%	—	2.7%
一株当たり純資産	676円34銭	658円31銭	102.7%	18円03銭

連結貸借対照表 資産の部 概況

(単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期末実績	対前期末 増減差
流動資産	16,772	18,665	▲ 1,892
現金及び預金	3,648	4,641	▲ 993
売上債権・未収入金	4,706	5,058	▲ 352
商品	7,806	8,180	▲ 374
その他流動資産	610	783	▲ 173
固定資産	14,507	14,328	179
有形固定資産	7,457	7,233	224
無形固定資産	417	412	5
投資その他の資産	6,632	6,682	▲ 50
資産合計	31,280	32,993	▲ 1,713

連結貸借対照表 負債・純資産の部 概況

(単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期末実績	対前期末 増減差
流動負債	15,654	17,422	▲ 1,768
仕入債務	8,716	10,451	▲ 1,735
その他流動負債	6,938	6,971	▲ 32
固定負債	4,799	5,036	▲ 237
負債合計	20,454	22,459	▲ 2,005
資本金	3,028	3,028	0
資本剰余金	3,151	3,138	13
利益剰余金	5,649	5,304	344
その他純資産	▲ 1,003	▲ 936	▲ 66
純資産合計	10,826	10,533	292
負債・純資産合計	31,280	32,993	▲ 1,713

- 「ライフスタイル提案型ショップ（New Can★Do）」フォーマットによる出店推進も、直営店の出店数が減少したため、前期に比べ店舗設備投資額は大幅に減少
- 生産性向上を目的としたセルフジ 導入をはじめとするデジタル投資額が増加

連結 (単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期2Q実績	前年同期比	前年同期差
設備投資(総計)	857	1,071	80.1%	▲ 213
・ 店舗	429	950	45.2%	▲ 521
・ デジタル	428	120	355.3%	307
減価償却費	602	550	109.4%	51

- 売上高の伸長により売上原価が伸びた一方で、商品在庫適正化を推進し、在庫回転率は前期より0.66改善

連結 (単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期2Q実績	前年同期比	前年同期差
在庫回転率 ($= (①/④) \times 2$)	6.90	6.24	110.5%	0.66
①期間売上原価	27,566	26,567	103.8%	998
②期首在庫	8,180	8,449	96.8%	▲ 268
③期末在庫	7,806	8,580	91.0%	▲ 773
④期間平均在庫 (②と③の平均)	7,993	8,514	93.9%	▲ 521

連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フローの増加要因は、当期純利益の増加876百万円および減価償却費の増加602百万円など、減少要因は仕入債務の減少1,735百万円など
- 財務活動によるキャッシュ・フローの増加要因は、短期借入金の増加400百万円および長期割賦未払金の減少251百万円など

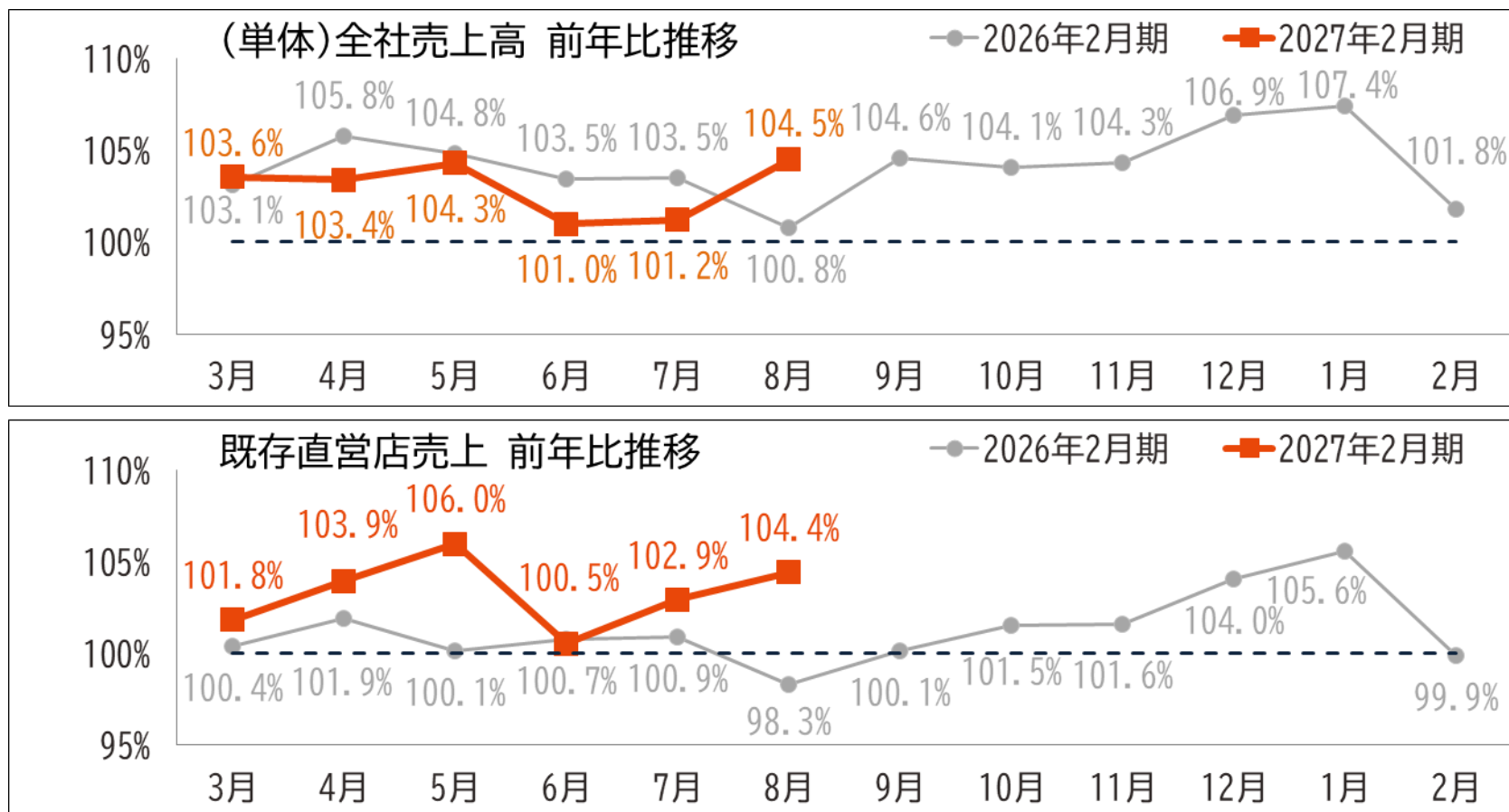
(単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期2Q実績	前期差
営業活動による キャッシュ・フロー	36	3,083	▲ 3,046
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 1,039	▲ 1,174	135
財務活動による キャッシュ・フロー	9	1,182	▲ 1,173
フリー キャッシュ・フロー	▲ 1,002	1,908	▲ 2,911
現金及び現金同等物 の中間期末残高	3,648	5,125	▲ 1,476

連結損益計算書の概況

当 社

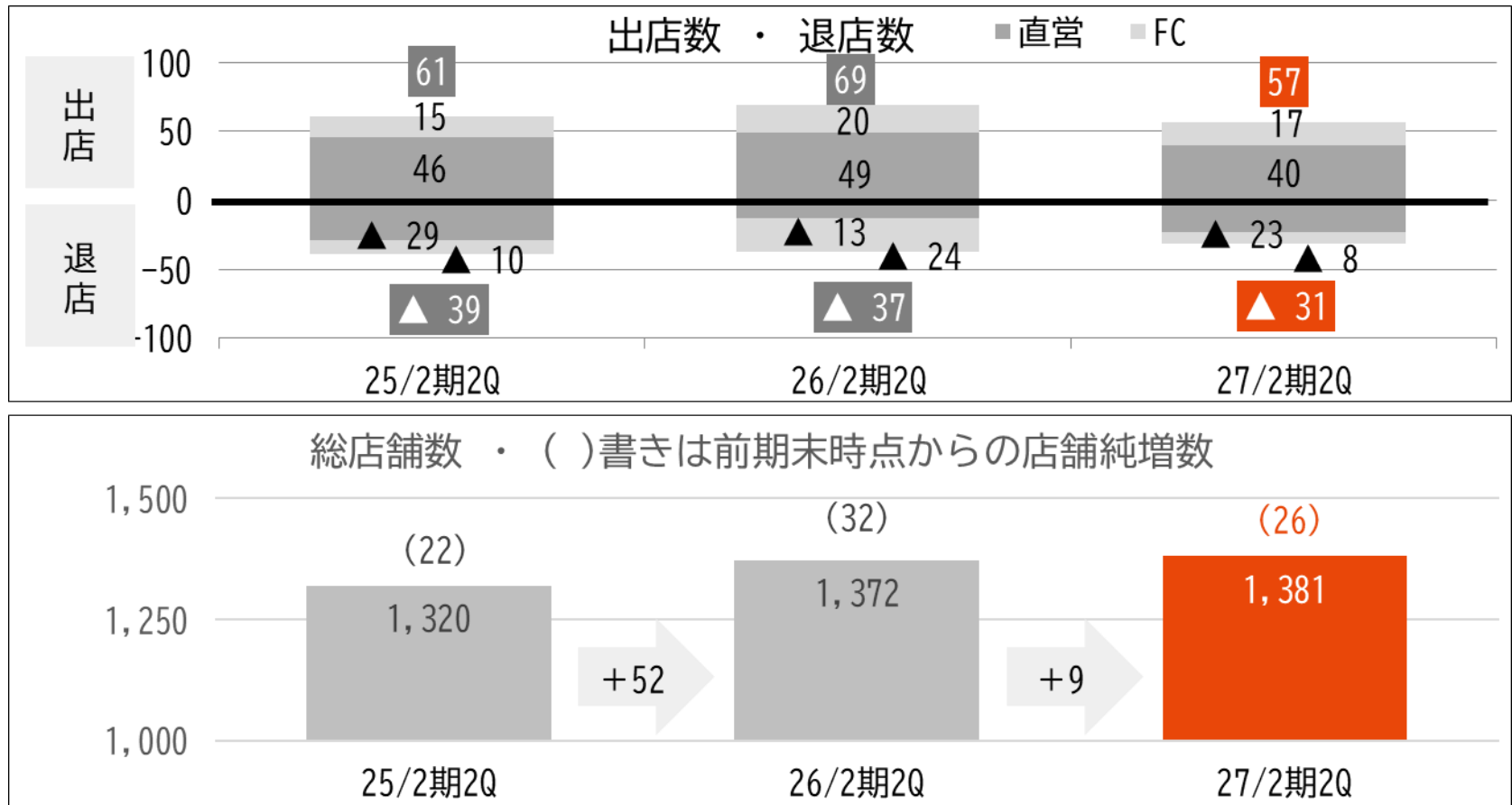
プラス与件	マイナス与件
・ 節約志向による当社既存店売上高の増加 ・ 他価格帯商品のニーズ上昇 ・ シールやキャラクター、平成レトロ、スクイーズなどのブーム ・ 豪雨・気温の乱高下など異常気象や頻発する地震・火災への関心及び防災意識の高まり	・ 人員確保の難度上昇 ・ インフレなどによる原材料等の高騰 ・ 地政学的リスク ・ 熊本地震、千葉豪雨などによる店舗への影響 ・ 高気温・少雨の地域と低気温・多雨の地域に二極化

- (単体)全社売上高 前年比：(6～8月)102.2%、2Q累計(3～8月)103.0%
- 既存直営店売上高 前年比：(6～8月)102.6%、2Q累計(3～8月)103.3%



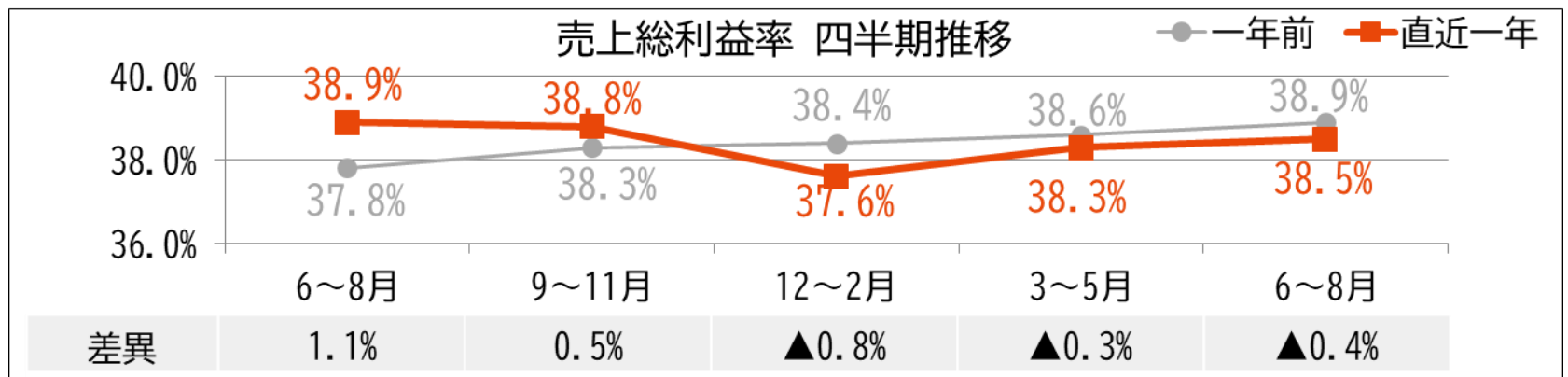
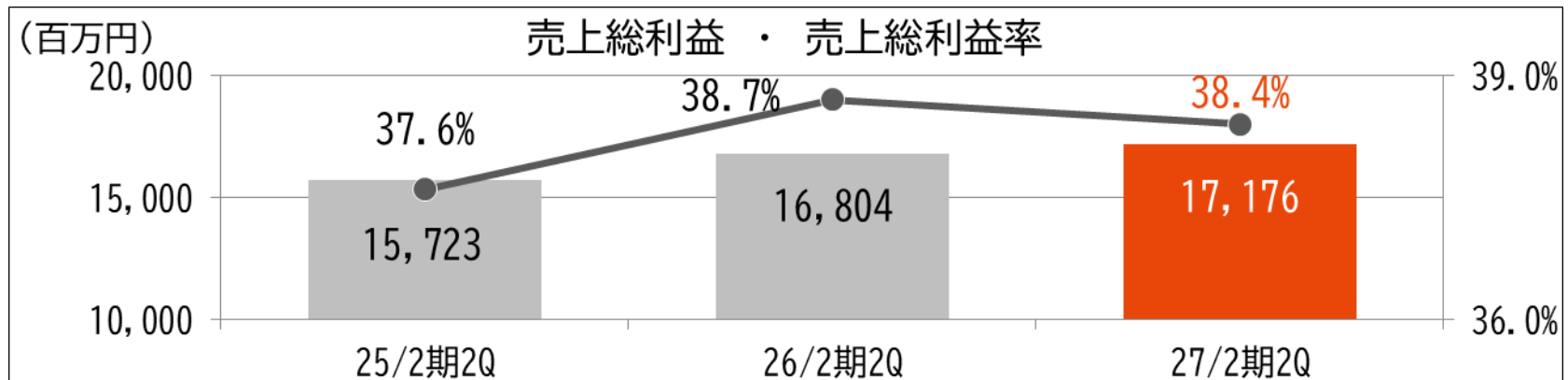
店舗数

- 出店：(6～8月)22店舗、2Q累計(3～8月)57店舗(通期計画85店舗)
- 退店：(6～8月)15店舗、2Q累計(3～8月)31店舗(通期計画45店舗)



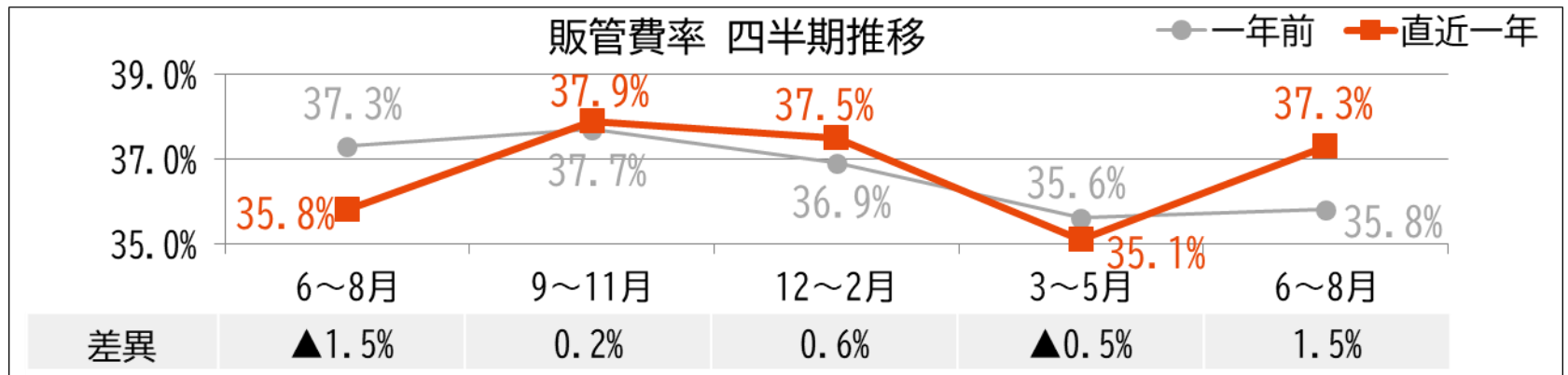
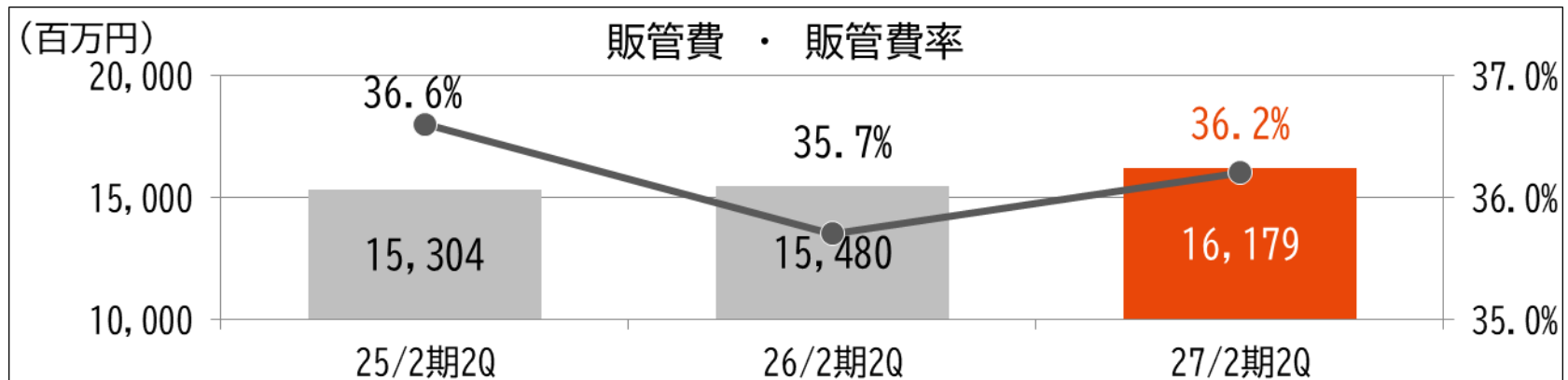
売上総利益

- 売上総利益：売上高の伸長に伴い、売上総利益も増加
- 売上総利益率：価格帯別の構成比見直し及び原価高騰に伴う減少
- 2026年2月期4Qで、積極的な商品入替を目的にした商品廃棄を実施

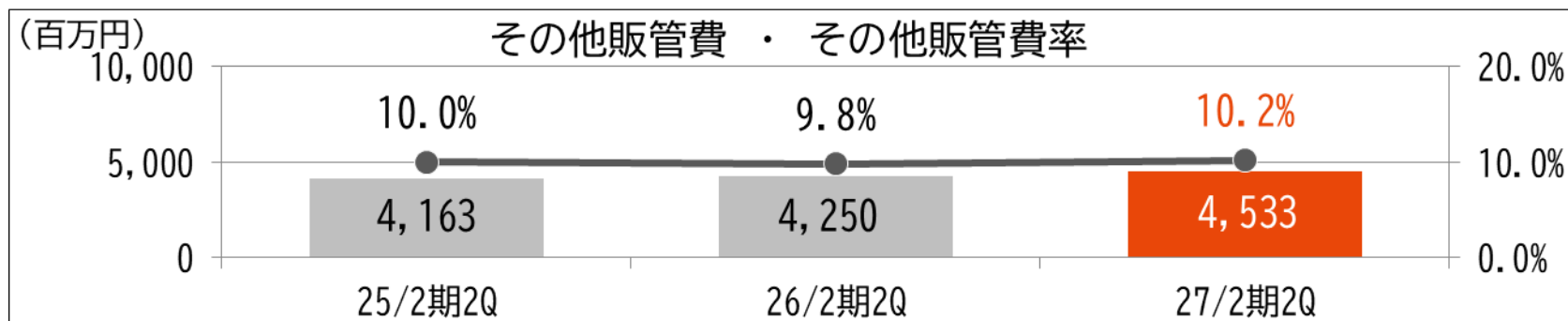
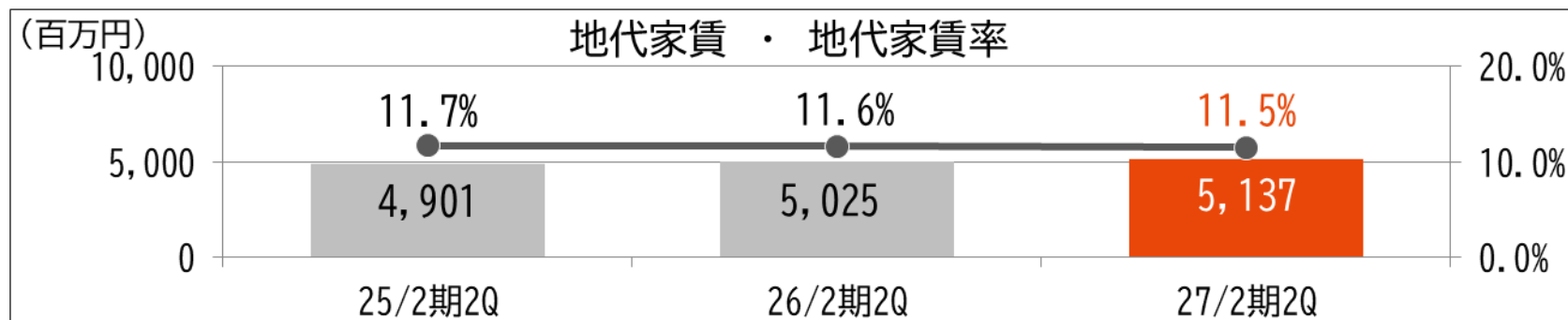
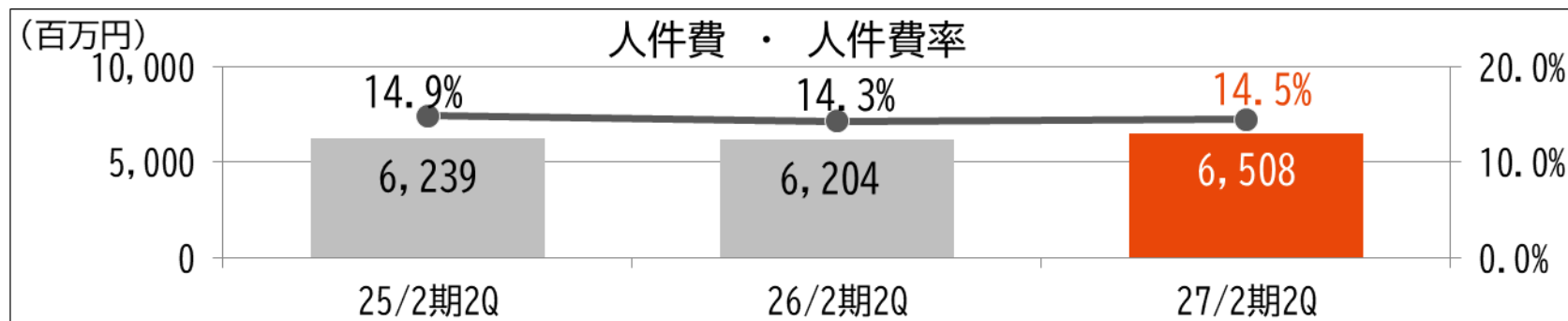


販管費

- 販管費：人時コントロールによる雑給と外注人件費の抑制を上回る費用の増加
- 販管費率：売上高は伸長も、人件費率とその他販管費率が増加
- 2026年2月期4Qで、什器入替を中心とした売場メンテナンスを実施

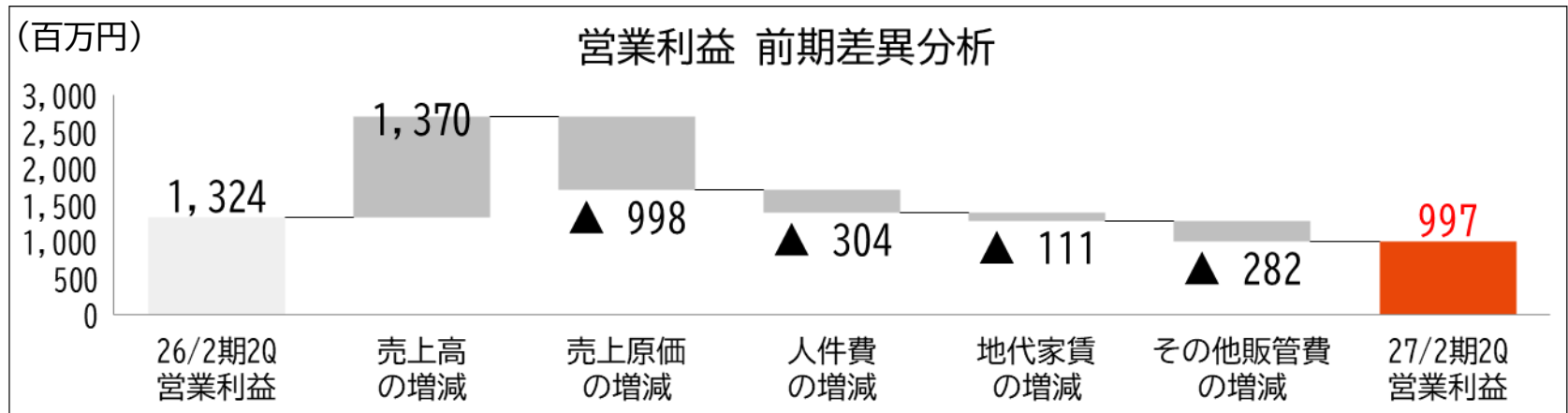


販管費の内訳



営業利益(減益) 前期差異分析

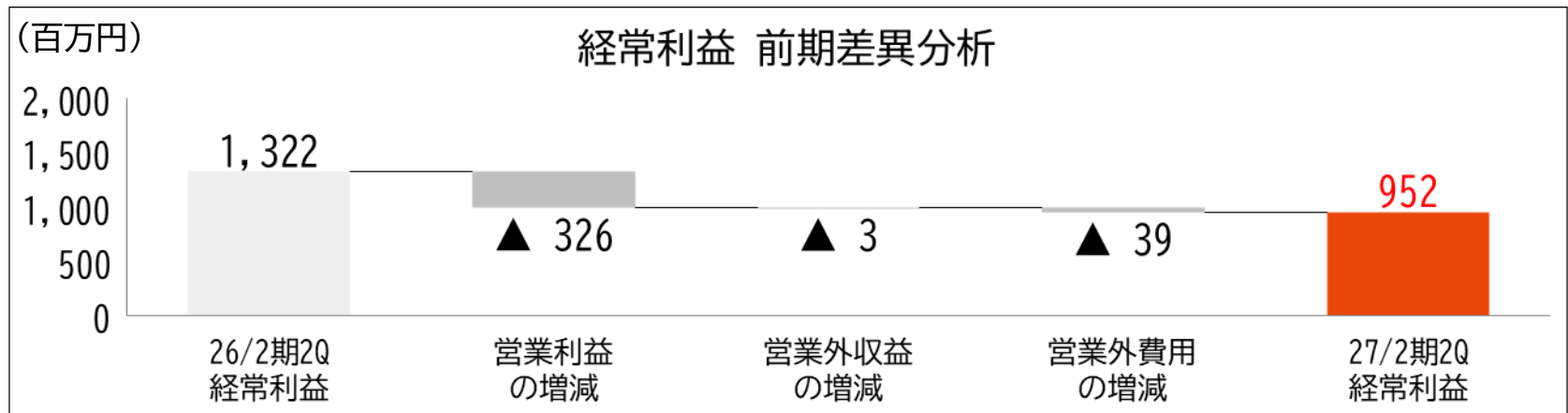
- 売上総利益の増加が、販管費の増加を下回り、326百万円の減益
- その他販管費は、キャッシュ決済に伴う手数料・母店販促費の増加など



連結 (単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期2Q実績	前年同期比	前年同期差
売上高	44,743	43,372	103.2%	1,370
売上総利益	17,176	16,804	102.2%	372
営業利益	997	1,324	75.3%	▲ 326

經常利益(減益) 前期差異分析

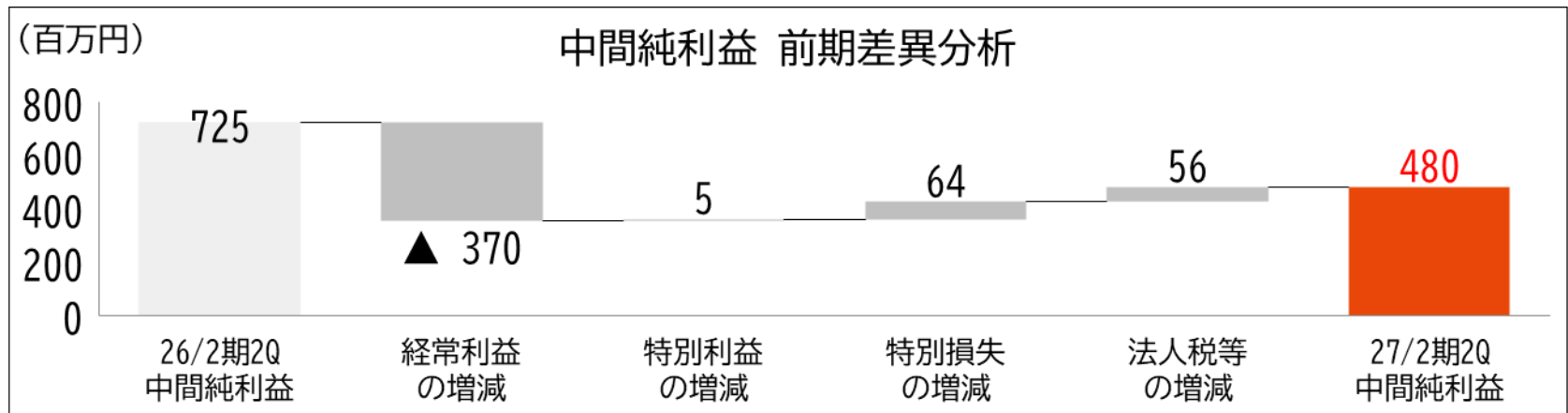
- ・ 営業利益の減少に伴い、經常利益も370百万円の減益
- ・ 営業外費用は、電手決済にかかる手数料の見直しに伴い増加



連結 (単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期2Q実績	前年同期比	前年同期差
売上高	44,743	43,372	103.2%	1,370
営業利益	997	1,324	75.3%	▲ 326
經常利益	952	1,322	72.0%	▲ 370

中間純利益(減益) 前期差異分析

- 法人税等減少も、中間純利益は244百万円の減益
- 特別損失は、減損損失と固定資産除却損の抑制により減少



連結 (単位 : 百万円)	当期2Q実績	前期2Q実績	前期比	前期差
売上高	44,743	43,372	103.2%	1,370
経常利益	952	1,322	72.0%	▲ 370
中間純利益	480	725	66.3%	▲ 244

特別損失・法人税等の内訳

- ・ 特別損失：減損損失を計上する店舗数が減少したことによる抑制
- ・ 法人税等：税引前中間純利益の減少により法人税等も減少

連結 (単位：百万円)	当期2Q実績	前期2Q実績	前年同期比	前年同期差
特別損失	81	145	56.0%	▲ 64
・ 減損損失	56	120	47.3%	▲ 63
・ 固定資産除却損	24	25	96.9%	▲0
法人税等	395	451	87.6%	▲ 56
・ 法人税住民税 及び事業税	375	363	103.2%	11
・ 法人税等調整額	19	87	22.7%	▲ 67

通期業績予想に対する進捗

- ・ 売上高・営業利益・経常利益・中間純利益は概ね計画通りの進捗
- ・ 2026年4月9日に開示した通期業績予想の数値から変更なし
- ・ 前期4Qに実施した、積極的な商品入替を目的にした商品廃棄および什器入替を中心とした売場メンテナンスについて、当期は現時点で実施計画なし

(単位 : 百万円)	当期2Q実績	当期計画 (通期)	計画進捗率	計画進捗 差異
売上高	44,743	88,600	50.5%	▲ 43,856
営業利益	997	1,670	59.7%	▲ 672
経常利益	952	1,600	59.5%	▲ 647
親会社株主に帰属 する中間または当期純利益	480	450	106.9%	30
一株当たり 中間または当期純利益	30.05円	28.12円	106.9%	1.93円

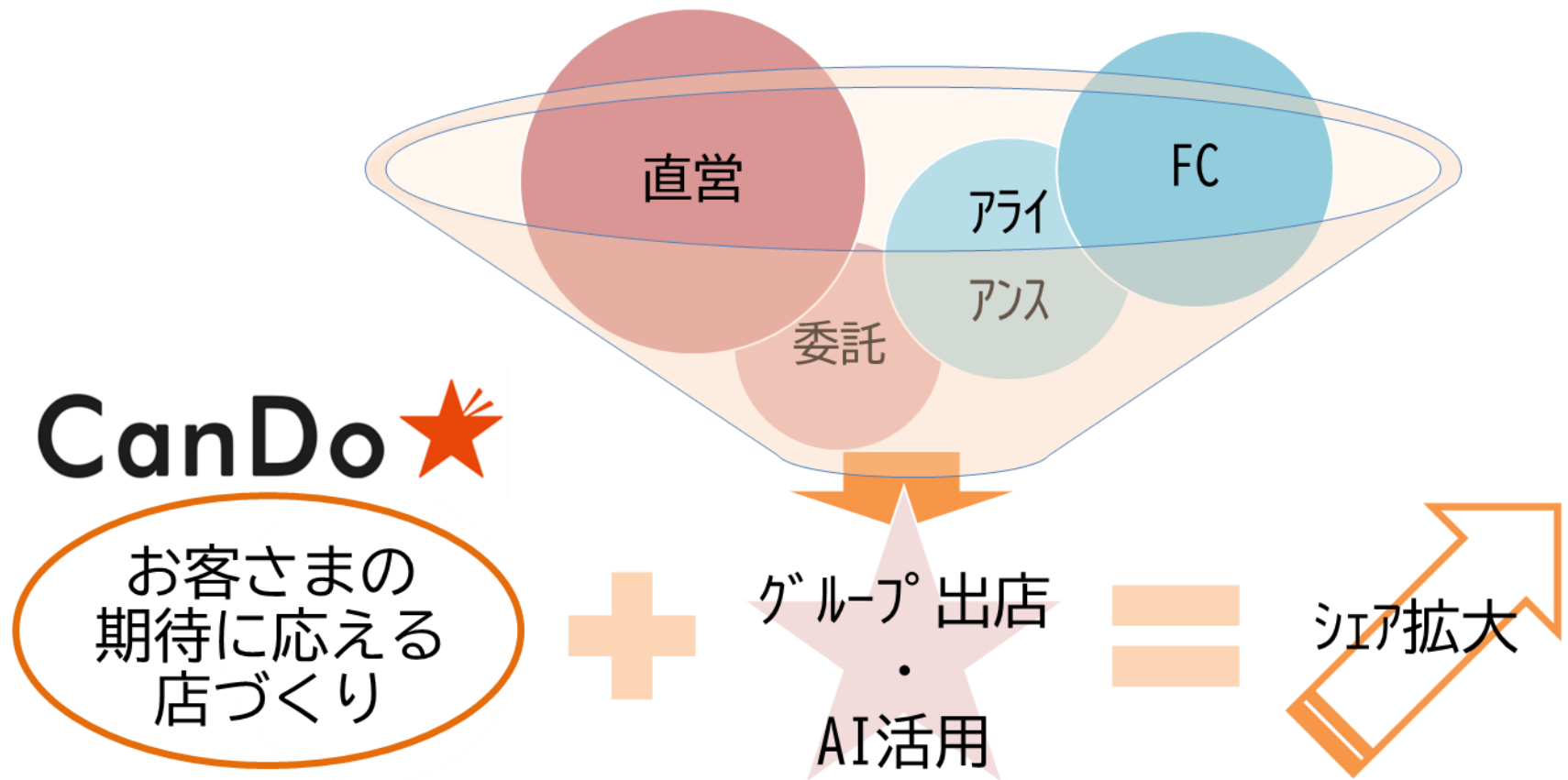
2027年2月期の取り組み

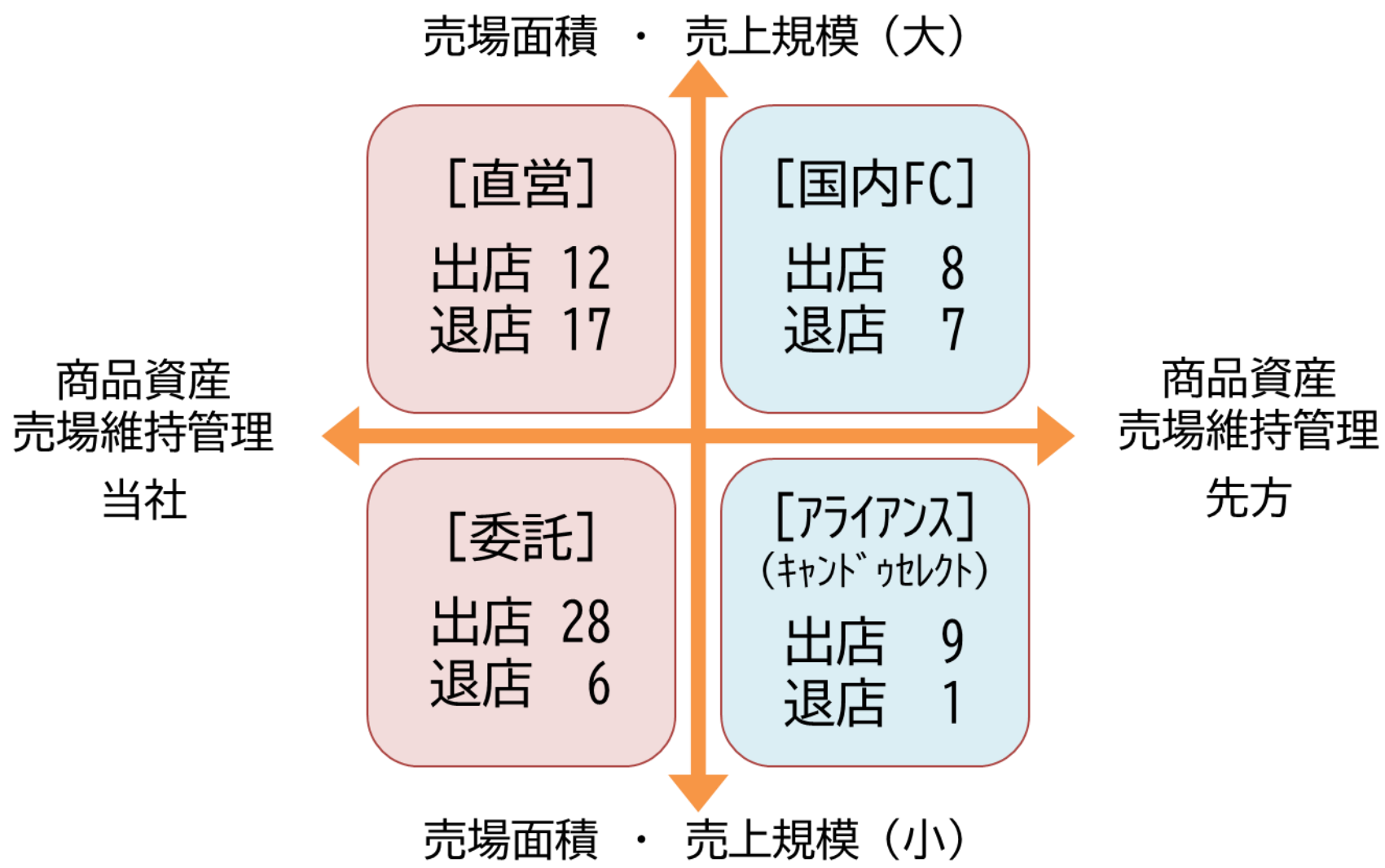
「抜本的な構造改革」

2027年2月期の具体的取り組み： I

『販路の拡大』

お客さまからの期待に応える店づくりの追求と
グループ出店を主軸にAIを活用した高効率な出店モデルの構築

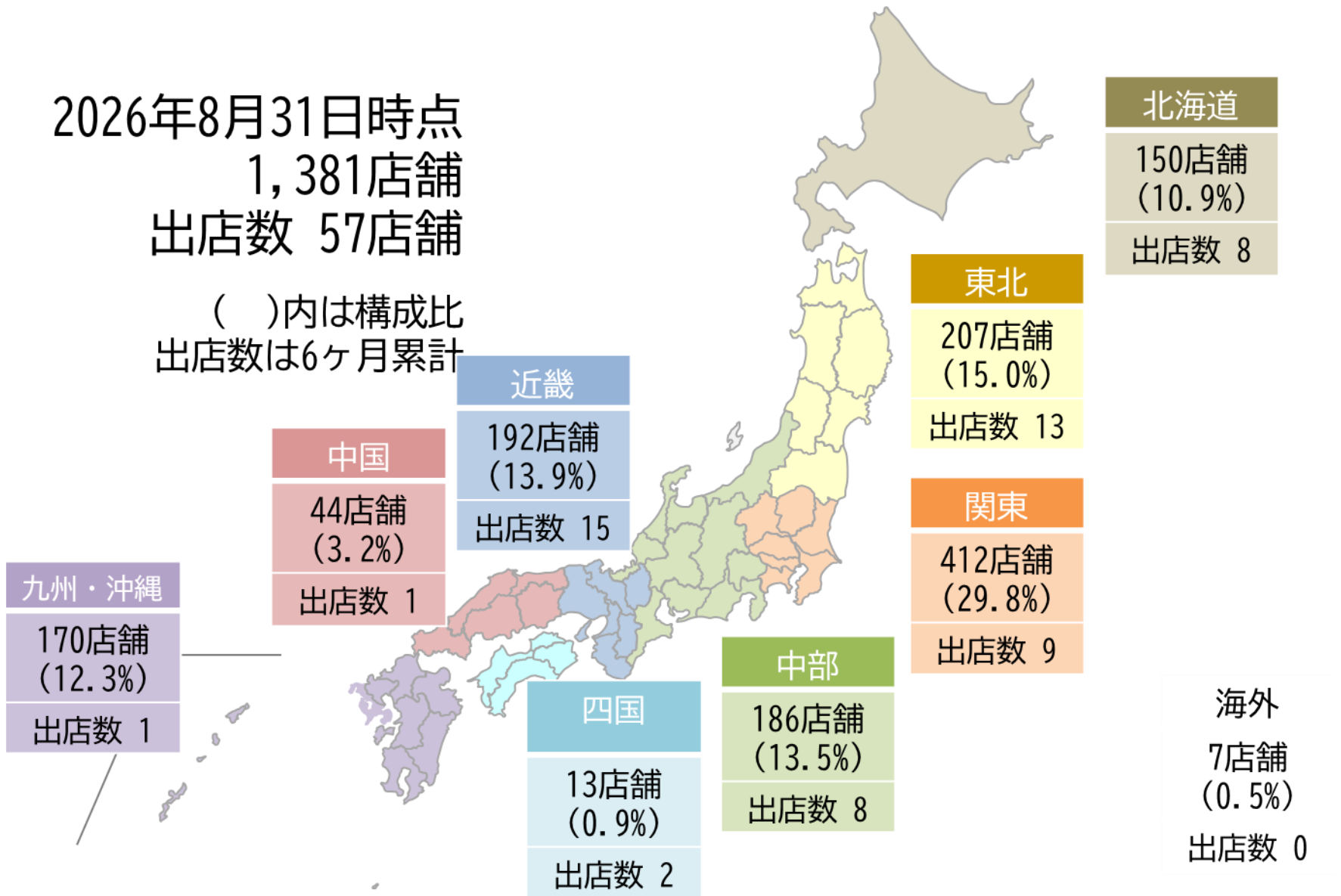




地域別出店状況

2026年8月31日時点
1,381店舗
出店数 57店舗

()内は構成比
出店数は6ヶ月累計



イオンタウン菰野店
(三重県・2026年7月31日オープン・250坪)



2027年2月期の具体的取り組み：Ⅱ

『商品・ブランドの差別化』

I ラインロビング戦略の徹底による新規顧客拡大

スクイーズ



トップバリュ商品



工具



キッズソックス



II キャンドゥらしい「楽しい商品」の強化

深海生物ヘアアクセサリ



ユニーク柄ソックス



カスタマイズスタンプ



ミニTキーホルダー



100円商品と他価格帯商品によるラインナップの再構築

イオングループのスケールとシナジーを活用した商品開発

オリジナル企画商品の拡充と拡大



お客さまの来店動機を高める商品企画と発信で、売上総利益を最大化

Instagramによる「キャントゥブランド」の発信強化

- ・フォロワー数は、2026年8月現在、85万人超
- ・国内企業ランキングは、97位(対象10,000社超)
- ・お洒落な画像による商品活用シーン提案

Thanks! 800k

「トイ・ストーリー」
商品サンリオジェル
キーホルダー

トミカシリーズ

リルアラモー
シリーズ

Xによる「キャントゥ」ブランドの発信強化

- ・イメージ訴求のInstagramに対し、情報量を優先するXですみ分け
- ・メディアで取り上げられた商品もリポスト
- ・推し活アイテムなどXユーザーに親和性の高い商品を紹介

メルヘンミニチュア



チェゴシムシリーズ



初音ミクシリーズ

パペットスンスン
フィギュア

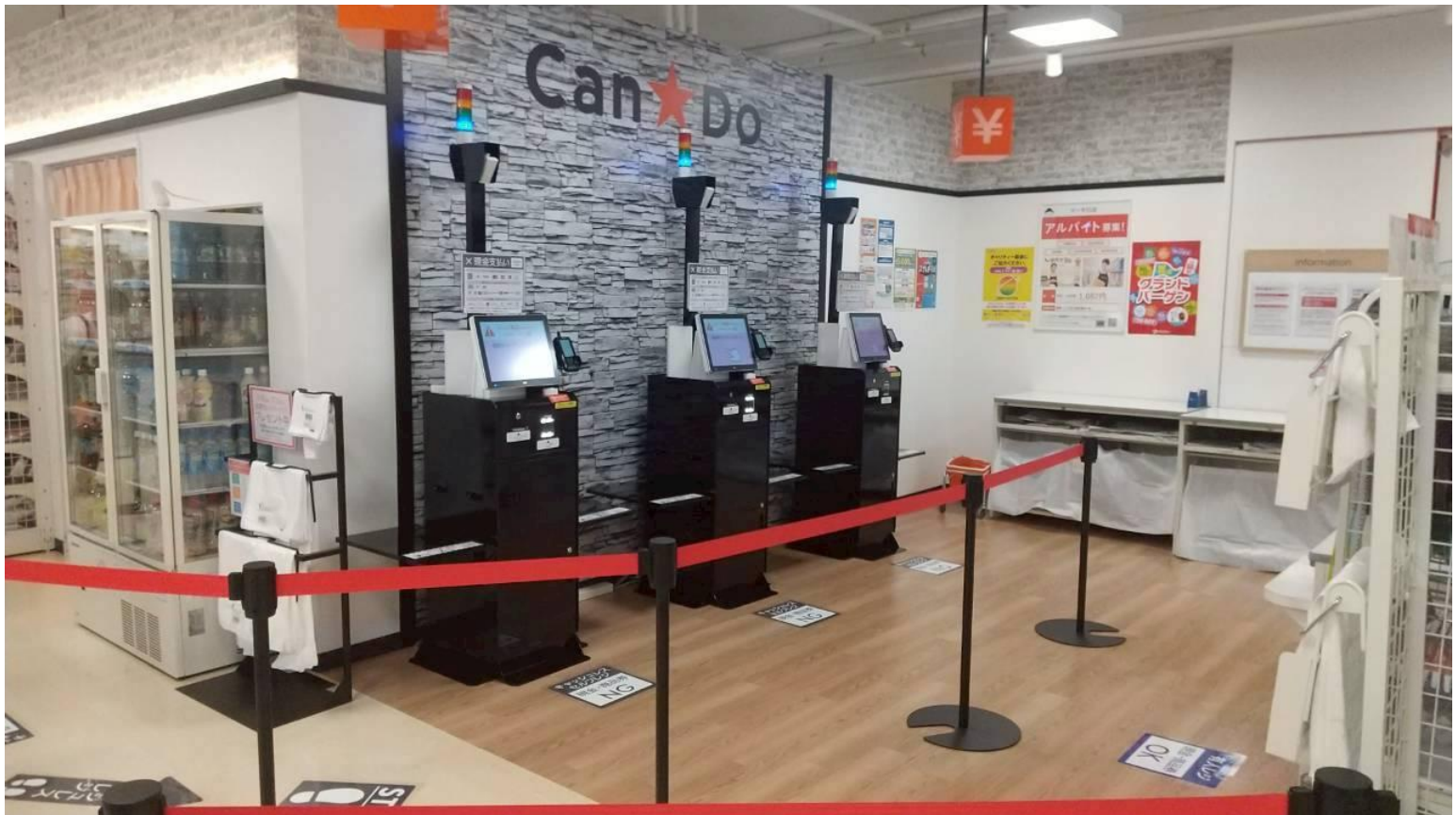
2027年2月期の具体的取り組み：Ⅲ

『企業価値の向上』

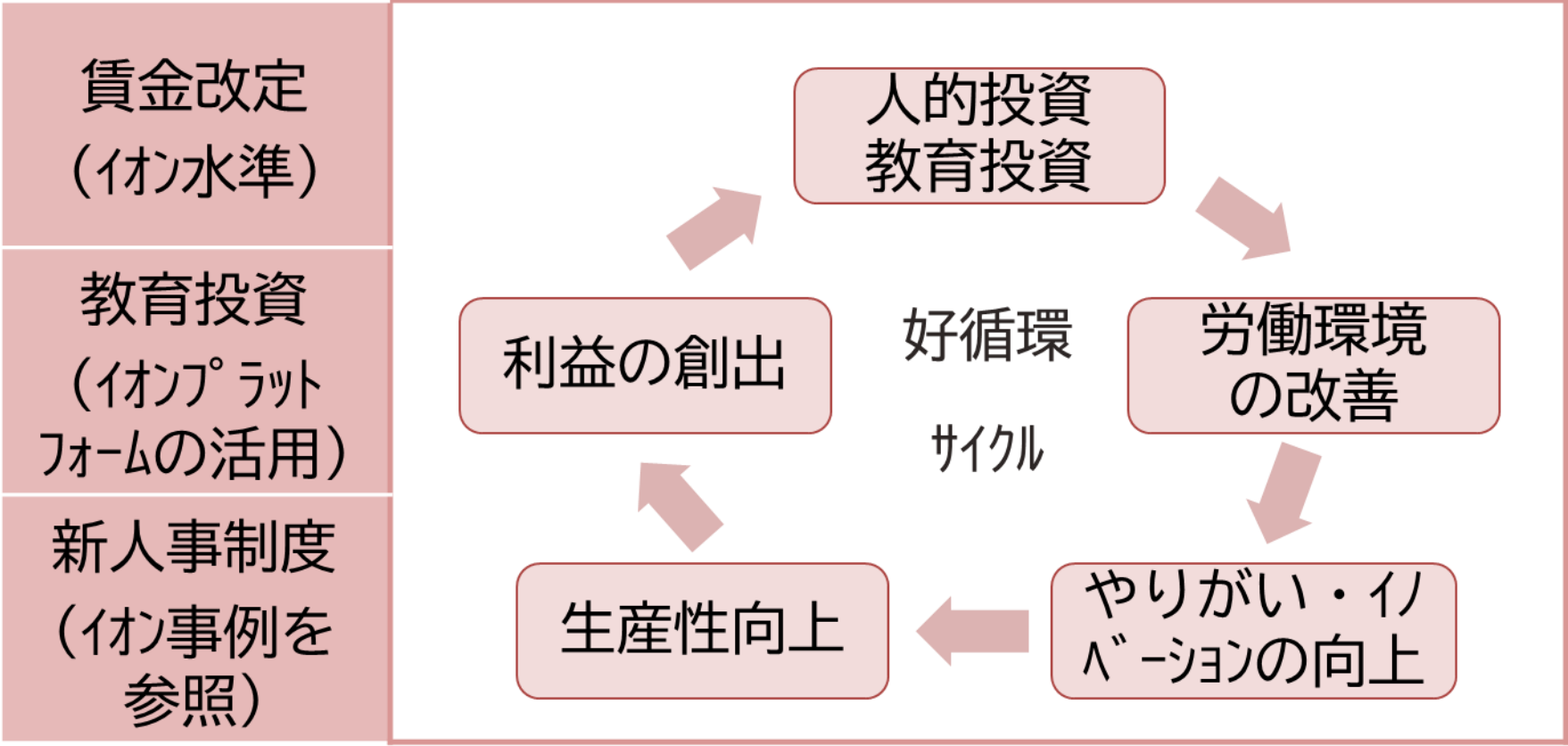
店舗運営方針：「省人運営の実行」と「本部業務AI化の推進」

店舗内物流の 再設計	・品出しパレションの刷新による人時効率の向上と欠品率の低減 ・ラインナップ管理と基本陳列方法の変更による商品補充頻度と欠品率の低減 ・小型活性化で店舗ポテンシャルを引き出し
店舗運営ルールの 見直し	・各種パレションを店舗タイプごとに標準化し安定的なお買い物環境をお客さまに提供 ・標準人時設定を更新し、合理的な運営へ ・店舗業務のムラ解消による店舗間格差の是正

- ・ 2026年2月期末時点導入完了店舗数 : 79店舗
- ・ 2027年2月期2Q累計導入店舗数 : 71店舗 (通期計画160店舗)



生産性を高めるための人的資本への先行投資の継続と徹底



【 ご注意 】

本資料に掲載されている株式会社キャンドウの現在の計画、見通し、戦略、認識、評価、想定等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。これらの情報は、現在入手可能な情報から株式会社キャンドウの経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、様々な重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することはお控えいただくようお願いいたします。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願い申し上げます。